

令和元年度 第1回日光市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和元年6月26日(水)午後2時～午後3時25分

2 場 所 本庁3階 大会議室

3 出席者

【構成員】

日光市長 大嶋 一生

教育委員会

教育長 齋藤 孝雄

教育委員 高井 孝美

教育委員 手塚 美智雄

教育委員 池田 由美子

教育委員 藤本 亮純

教育委員 速水 茂希

【出席を依頼する者】

企画総務部長 近藤 好、教育次長 川田 盛雄

資産経営課長 小林 岳英、資産経営課副主幹 齋藤 朋子

学校教育課長 伊東 剛、学校教育課係長 湯澤 智則

【事務局】

総合政策課長 鈴木 和仁、総合政策課長補佐 高村 光康

総合政策課副主幹 菊池 宏江、総合政策課副主幹 和田 直樹

総合政策課副主幹 大塚 正

【傍聴者】 0名

【報道機関】 0名

4 内容

高村総合政策課長補佐 本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。これより令和元年度第1回日光市総合教育会議を開催させていただきます。私は事務局を務めさせていただきます高村と申します。よろしく願いいたします。それではお手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。はじめに大嶋市長よりご挨拶を申し上げます。

大嶋市長 皆様こんにちは。本日は大変お忙しい中、令和元年度第1回日光市総合教育会議にご出席をいただき誠にありがとうございます。また委員の皆様におかれましては日頃

より市政各般にわたりまして、教育行政をはじめ諸所の問題に関しまして、深いご理解とご協力を賜り、心より感謝を申し上げます。この教育会議も年に限られた回数しか開かれないわけですが、いろいろな意見交換をしっかりとやっていくことが、日光市の教育行政にとってプラスに働くというようにもっていきたいと思っています。いろいろな議題がありますが、ぜひ、この機会にいろいろな意見を聞かせていただきたいと思います。日光市は先週の土・日から、日光市内の地区を9つのエリアに分けて、各地区を回らせていただくという、まちづくり懇話会を開催しました。今市は5地区にわかれます。今市や落合、小林や大沢とか各地区を回って意見交換をするわけですが、前もって自治会長や地域の代表者の方に絞らせていただいて開いている都合もありますが、やはり各地区でいろいろな意見をもらうことがあります。そこで私は申し上げているのですが、今、栃木県で言えば宇都宮市以外は、人口減少と少子高齢化というのが、日本全国どこの地方自治体も共通課題なのです。各シティプロモーションとかいろいろなまちの宣伝をしながら、移住・定住を増やそうというのはどこでも一緒にやっています。日本全体では人数は減っていく中で、そういうプロモーションなどを行っているのですが、いつも私がそこで申し上げるのは、最後は人口減少に歯止めをかける、もしくはその自治体が生き残れるかどうかというのは、教育にかかっているなど最近特に思います。日光市の子どもたちが一度は夢を追いかけて、東京や世界へはばたいていただきたいと思います。戦い終わった後は、最後は地元に戻ろうとか、経験を活かして最後はふるさと日光に貢献しようとか思ってくれる子どもや成人の人たちが何人いるかというのは、地域が生き残れるかどうかの最終的なゴールではないかと思っています。昨日も商工会議所の集まりで言わせていただいたのですが、合併をして少しもいいことがないとか、合併に対する不平不満を言っていると、最後に子どもは帰ってこない。不平不満があれば私に言ってくださいと言いました。子や孫の世代が聞いていると、いつまでたっても人は居つかないのではないかと思います。高齢者の方や身体の悪い方もいますが、8万人でこの日光市をみんなで作っているわけで、その中の子どもたち児童、生徒というのは、未来の日光を背負ってくれているという意味もありますから、とにかく官民でいい環境を与えたいと思いますし、大人みんなで見守っていけるような教育行政ができればと最近思っています。そんなことを感じましたので、今日は発言させていただきました。今日は、日光明峰高校支援について、公共施設マネジメントの取り組み状況についてという議題を用意させていただいておりますが、その他のところでもいろいろな意見をいただければと思います。大変お世話になりますが、何卒よろしくお願い申し上げます。以上です。

高村総合政策課長補佐 続きます。会議次第の3.会議の運営事項についてに入らせていただきます。会議の開催にあたりまして、日光市総合教育会議設置要綱の規定に基づき、会議の公開について協議させていただきます。本日の会議は設置要綱の第6条の但し書きで定める、非公開とすべき事案に該当せず、会議を公開としてよろしいかお伺いいたします。

(意見なし)

高村総合政策課長補佐 特にご意見等ないようですので、本日の会議は公開とさせていただきます。次に運営要領の規定による会議録署名委員 2 名の選定についてであります。大変申し訳ありませんが、事務局としましては、今回は手塚委員と池田委員にお願いできればと考えております。両委員ご了解いただけますでしょうか。

手塚委員・池田委員 (了承)

高村総合政策課長補佐 また他の委員もよろしいでしょうか。

委員 (了承)

高村総合政策課長補佐 それでは手塚委員と池田委員よろしくお願ひいたします。続きまして、会議次第の 4.報告事項に入らせていただきます。会議中は議事録作成のため、ご発言はマイクを通してお願ひいたします。それでは、これ以降の進行は市長のほうでよろしくお願ひします。

大嶋市長 それでは早速、報告事項 1 の公共施設マネジメントの取組状況についてであります。担当より報告をお願いします。

小林資産経営課長 皆さんこんにちは。資産経営課長の小林と申します。私のほうから公共施設マネジメントの取組状況、特に教育委員会に関わることにつきまして、資料に基づきまして報告させていただきたいと思ひます。まず 1 件目です。資料 1-1 をご覧ください。文化会館等 3 施設の検討状況についてになります。この件に関しましては、昨年 11 月 19 日の総合教育会議の中で、その時点での状況を一度ご説明させていただいているという事項になりますが、おさらいの意味も含めまして、当初の経緯から説明をさせていただきたいと思ひます。まず、下段の表をご覧ください。平成 28 年 7 月に策定しました、公共施設マネジメント計画実行計画におきまして、文化会館等 3 施設をモデル事業のひとつと位置付け、同年 9 月から市内で検討を続け、その結果を昨年日光地域と藤原地域で開催した、地域説明会で説明をさせていただいたところです。その具体的な内容として、資料の一番上に戻っていただきまして現状課題という部分ですけれども、合併以降 1,000 人規模のホールを 3 施設保有してまいりましたけれども、いずれの施設も老朽化が進み、施設を現状のまま維持していくためには、大規模な改修や耐震化のほか、経常的な維持管理費用などが多額な費用となるということから、1 館に集約することを前提に、利用状況や建築年数、耐震化などの状況などを踏まえ、中段に記載しております、市の考え方まとめというところですが、

STEP1、STEP2 と段階的に調整を図ることとしました。STEP1 が端的に言いますと、日光総合会館と藤原総合文化会館の早期廃止、STEP2 が新たな会館の施設整備については、平成 30 年度中を目途に庁内の考え方を調整しますというところがございます。ここまでが、昨年 11 月 19 日の総合教育会議の中で、ご説明させていただいた事項かと思えます。その後の取組ということになりますが、再度、下段の表をご覧くださいと思います。平成 30 年 11 月に、日光総合会館と藤原総合文化会館を廃止した場合の跡地等について、どのような利用方法が可能なのかということを探るための調査、可能性調査ですけれども、これをサウンディング型市場調査と言いますけれど、それぞれ日光、藤原の会館で実施をいたしました。現在その結果を参考に、日光、藤原それぞれで、自治会長会の会長さんや文化協会の方などの団体からご推薦をいただいた方で組織しております専門部会を設置し、5 月から検討を始めております。本日午前中、日光地域で 2 回目の会議を開きました。午後 3 時から、藤原のほうでも会議を開くということになってございます。こちらの専門部会につきましては、9 月を目安に専門部会の意見を取りまとめ、跡地利用等について市の考え方や方向性を整理してまいりたいと考えてございます。一方 STEP2 にかかる新たな文化会館施設、これは現在の今市文化会館の在り方も関わってくると考えておりますけれども、こちらにつきましては、平成 30 年度中に検討を進めてきたものの結論に至らなかったということから、今年度改めまして庁内検討組織をたち上げ、日光や藤原の状況などを見据えながら並行して検討し、9 月頃までには市としての考え方をまとめ、その後、市民委員による検討を開始し、今年度中には一定の方向性を見出していければと考えているところでございます。今、お話した部分は、資料の中に記載はございません。なお、新たな文化会館施設につきまして、一定の方向性を見出していくためには、教育委員会との連携というのが不可欠ということで考えてございます。そのため庁内検討の段階から教育委員会とも情報を共有し、もう少し端的に言いますと、庁内の検討組織の中に教育委員会も一緒に入っただき、あわせて検討しているというイメージになろうかと思えますけれども、連携して検討していきたいと考えているところでございます。

続きまして、資料 1-2 をご覧ください。こちらにつきましては、以前の教育委員会議の中で、旧栗山中学校を普通財産に用途替えすることについて、ご議論いただいた案件ということになってございますが、平成 30 年 7 月に栗山地域の旅館業経営者の方から、日本語学校の設立について相談を受けまして、その後、旧栗山中学校を候補地として平成 32 年 4 月の開校に向け、賃貸借の協議を進めてきておりました。日光市としては、地域の活性化や働き手不足に有効な手段との判断から、昨年 12 月以降、具体的な手続きを進める予定で、議会等への説明を行ってまいりましたが、資料下段の具体的な経過のところをご覧ください。昨年 11 月に国におきまして、出入国管理法というものの改正を行いました。それに伴いまして、日本語学校の運営に大きな影響を与える可能性があるとのことから、事業者側のほうから開校に向けた手続きを延期したいという話がございまして、延期というかたちで話を進めてまいりました。ところが今年に入りまして 5 月に事業者側のほうから、残念ながら

旧栗山中学校を活用した日本語学校の運営を、正式に断念したいという旨の申し入れが市にございました。市としましては、旧栗山中学校の利活用につきまして、現時点ではその後特に決まったものがございませんけれども、今後、地元や民間事業者等から問い合わせがあった場合は、改めて検討してまいりたいというふうに考えているところでございます。以上、大きく2件になります。よろしくお願いいたします。

大嶋市長 説明が終わりました。この件に関しまして、ご意見・ご質問等あればお願いしたいと思います。

高井委員 まず資料1-1の文化会館3施設の検討状況について質問なのですが、今後、教育委員会も関わっていく方向で、庁内のいろいろな検討を行っていききたいとお話がありましたが、下の表の下から3行目、平成31年3月サウンディング型市場調査実施結果の報告と書いてあるのですが、具体的にどういう感じというのは、資料として私たちには見せていただくことはできますか。例えば、今日の午前中は日光地域で会議があったと伺いましたが、その場にはある程度のもは出ていますよね。

小林資産経営課長 本日が2回目の会議となっておりますが、1回目の会議を5月末にやっていますが、1回目の会議の際にサウンディング市場調査の概要というかたちでは、委員さんにはお渡しをさせていただいておりますので、その資料と同じものでよろしければお渡しすることは可能です。

高井委員 それを見たいと思いました。こういう状況についてという資料をいただくと、会議の前に教育委員として、自分でいろいろ調べて検索して、どういう状況なのか勉強しなくてはいけないのでしょうか、こういうように報告するのだとしたら、今後も関わっていくってことですから、ある程度資料として準備してほしいと思います。

次に資料1-2の旧栗山中学校活用の具体的な経過で、運営を断念する旨の報告を受けるというのは、最終的な結果ですよね。もうこれは、対外的にマスコミとかにアナウンスされていますね。

小林資産経営課長 当時議会の議員全員協議会のほうで、市のほうから報告をしている中で、議員全員協議会にはマスコミが入っておりますので、その中では確か新聞記者のほうで記事にしたというような記憶をしております。うちのほうでマスコミに向けたリリースをしたということではございません。

高井委員 この資料をつくるのに、一番下の括弧の中の太文字を読まないと、この案件のタイトルが良くわからないので、上のほうにこれが中止になりましたとあるとわかりやすい

と思うのですが、一生懸命そうなのかとずっと読んできて、結局この運営はなくなったんだなああと最後にきてわかったので、資料としては結果をまず最初を書いて、どうしてこうなったかという経緯を説明したほうがわかりやすいと思います。

大嶋市長 以後気をつけたいと思います。気をつけてください。1番目の資料はありますか。

小林資産経営課長 そのこのところで少しお話をさせていただきますが、サウンディング型調査を、日光と藤原それぞれについて実施をいたしまして、ホームページ等でも公表させていただいております。その部分については、資料をお渡しさせていただくようなかたちをとらせていただきます。また先ほど文化会館全体の話として、今後どうしていくのだというところで、教育委員会とも連携をしながらというところにつきましては、当然またサウンディング型市場調査でやっているところではございませんので、あくまでお渡しできるのは、日光の会館と藤原の会館についてのサウンディング型市場調査の結果ということになりますので、その点はご了承いただきたいと思います。

大嶋市長 他にありますか。

速水委員 まず文化会館の検討の流れなのですが、たぶん前回の教育委員会議で、検討委員会のほうに教育委員が入れないのかというお話をさせてもらったときに、それは筋違いだみたいな話がありまして、私もその辺、教育委員の役割みたいなものがどこまであるのかわからないので、それをもう一回勉強したいからお願いしますという話はしたのですが、資料を見ると、文化会館の設置とか管理に関しては、教育委員が責任を持つということが書かれているので、関係するのではないですか、報告だけ上がってくるのを聞くだけなのかという話をしたときに、そんな感じですよという感じだったのです。今回この議論のほうにたぶん入れていただけるというお話だと思うので、非常にありがたいと思っているのですが、今後の関わり方としては、教育委員はどの段階でどんな会議に出ていくとかがわかれば、教えていただければと思います。

小林資産経営課長 全体を整理しながら、話をさせていただければと思います。まず現在の文化会館、日光の場合は日光の観光のほう観光施設の位置づけになっています。観光課が所管しております。今市と藤原については、教育委員会の所管している施設ということになっています。ただ日光につきましては、総合会館という位置づけで観光を担ってはいるものの、施設の形態としては、社会教育施設の一形態であるという認識をしているところがございます。そのため耐震の度合いについても、不特定多数の人が集まる施設であるということから、社会教育施設としての耐震化の基準は、一般的な施設よりも厳しい基準になるのですけれども、そういったものを適用させるようなかたちで、適合しているかしていないかという

判断をしているところでございます。そもそもの話でいきますと、そういった教育委員会の施設 3 館をどうしていくのだというところは、本来、教育委員会の中で議論されるべき話なのかもしれませんが、実は合併以降庁内の中では、教育委員会を中心に一時進めてきたという経緯もあります。その後公共施設マネジメントの話が浮上してきまして、全体的にモデル事業というところで、該当してきたというところもございますので、現時点ではこういう動き方になっているというのが正直なところです。ただ今後の関わり方としてということになります。今後日光市の会館のあり方をどうするのだというところは、本来の立ち位置に戻りまして、教育委員会がまずどう考えるか、どういう施設を考えていくのかというところは、間違いなく外せない話なのだと思います。それは社会教育施設としてということ。一方で日光市の財政状況ですとか、公共施設全体のマネジメントのあり方というところから、教育委員会だけでうまく話を進められることでもないのかなというのが正直なところです。そういったところも含めて、まずは庁内においては教育委員会の職員と、市長部局の職員と知恵を出し合いながらどういったものができるかということを考えつつ、その結果をもとに市民の委員による、今、日光と藤原でつくっている専門部会のようなものか、もう少し幅広いものになるのか検討しなければわからないのですが、何らかのかたちで市民の方に入っていて、議論をしていくということになるかと思えます。そして、さらにその教育委員会の中で、教育委員の関わり方というのは、教育委員会のほうで当然に教育委員会の施設として、どういうものをつくっていくかということになるかと思えますので、教育委員会の中で教育委員会議の議題としてとか、改めて別にご相談をさしあげてとかというのはたぶん考えていく話なのかなと、私のほうからはそこまでしか言えないのですが、教育委員にも議論が進んでいく中で、全体的にご意見をいただく機会というのは出てくるのかなというのは、私のほうとしては推測しているところです。

速水委員 わかりました。この案件に対しては教育委員会とか教育委員が関与できて、意見が述べられるということでしたら、それはいいことだと思いますので、ありがとうございました。もう 1 点なのですが、旧栗山中学校の日本語学校がだめになったというお話で、教育委員会議に議題に出ていたときに、私も申し上げさせてもらったのですが、実際にその時点で、本当にできるのかなと私は思いました。そのときの想定は、栗山に通わせて鬼怒川で働かせるみたいなお話の前提で、距離がかなりあるということと、すでに鬼怒川とかにあるので、そこにつくって本当に通う人がいるのかと疑問に思って、どうなのですかと質問させてもらったときがあるのですが、その部分については、あまり私たちは議論する立場ではないみたいな感じで、要するに売るか売らないか、所管が変わってしまうので、了承だけをいただければという感じだったと思うのですが、日光市としてはもういらぬものだから売れたり買ったりしていただければ、一番それがいいという感じだと思うのですが、見込みとして私のような素人がみても甘かったのではないかと思うのですが、その辺はどうなのですか。

小林資産経営課長 運営自体は、完全に民間の事業者の方が企画してきた話ですが、当初の見込みが不十分だったとか、甘かったということで断念したという話ではないと伺っています。やはり出入国管理法の関係で、入管法が厳しくなったというのもございますので、人の集まりのところで、当初予定していたところと違ったと、その見込みが甘かったと言えらばそうなのかもしれませんが、代替措置として、鬼怒川温泉駅の後側の学校とは連携を取りながら、別の形態で生徒さんはやっているということでは聞いています。旧栗山中学校を活用してというところは、断念をしたいという話では聞いていないところです。

速水委員 あれは同じ会社の方がやられているのですか。

小林資産経営課長 旅館業の方は同じ方が関与はしていますが、事業者は別です。当初予定していた事業者とは別の事業者です。

速水委員 元の旅館の方が絡んでいる話ですよ。もう 1 点なのですが、たぶん私がその話を聞いたときには、入管法の話は出ていたような記憶があります。こういう話が出ているので、どうなのかというお話をそのときさせてもらった記憶があるのですが、その前に決まっていれば、後からその話は出てきたのかもしれませんが、わかりました。

大嶋市長 他にございますか。

藤本委員 文化会館のことでお尋ねします。前提条件の資料 1 の表のところで、財政的な負担があつて 1 カ所に集約するということは、納得がいくところなのですが、裏面のところにある今後というところを見たときに、現在の今市文化会館をどうするかという話でこれから進めていくと、選択肢の中で新たな場所に新たな文化会館施設を整備するということになったときに、ニコニコ本陣もある今市にこだわる理由を、具体的にデータの的なものがあれば教えてください。

小林資産経営課長 今市にこだわるという用語弊があるかもしれませんが、まず STEP1、STEP2 になっているという前提のところとして言えば、今市は耐震化しているけれども残り 2 施設は耐震化をしていないというのが大前提としてあります。残り 2 施設を使い続けるということは、大規模改修に加えて耐震化もしていかなければいけないというのが 1 つあります。さらに利用率というのは、日数に対しての利用率ですので、三百何十日ということに対して何日使っているかという利用率だけで言いますと、今市が 70% くらい、日光が 45% くらい、藤原が多くても 15% くらいという利用率の問題があるということ、さらにその利用率というのは、今申しあげましたとおりの日数ですから、利用人数で申しますと、日光の場合は 50 人以内の利用が 6 割くらいを示しています。藤原もいろいろな団体の練習とかリハ

一サル、そういったものに使われているケースが多いということで、利用状況等もふまえて、あと今後使い続けていったときの大規模改修や耐震化ですとか、耐震化という話になると、本来は耐震化を満たしていない状況ですので、社会教育施設として専門的な数値になりますが I S 値という耐震化を示す基準があります。その基準が、0.75 以上が社会教育施設としての耐震化の数値になります。今市の文化会館は耐震化が済んでいますので、それをクリアしています。日光の総合会館が 0.65、要するに 0.75 を下回っています。藤原は 0.4 で、大きく下回っています。万が一何かがあったときのためにということを考えますと、すぐに耐震化して使うということもなかなかかなわずという部分もございますので、STEP1 と STEP2 という考え方がまず出てきたということになります。新たな会館をとということになりますと、こちらに書いてあるのはあくまでも方法論として、可能性があるのは既存のものを直すか、既存のところ新しいものをつくるか、新たな場所につくるかという大きく 3 つくらいの方法になるのかなと、それが新しい場所はどこなのかというのは、検討の中で新しい場所に建てましょうという話になれば、新しい場所も考えなければなりませんし、今市の会館を使い続けるのか、それとも壊してお金をかけて新しいものをつくるのか、そこも今後の新しい会館のあり方としての検討の中で、議論していくべき話なのかなと考えているところです。

大嶋市長 私から補足説明しますと、まず今の財政状況ですと、合併特例債というものの使い道として、今から何年か前に決定をして、文化会館も合併特例債を使ってつくっていただければ何とかできたと思うのですが、ここから先 2 年後からは、特例債というのほぼほぼ債券が発行できなくなるというか、財政的にとてもきつくなるのです。その中で新しく文化会館をつくらうという 30 億円とかのお金がかかる中で、財源を見出すのは今の状況だと非常に厳しいということです。将来的にはどうしていくかというのは、検討はしていかないとならないと思います。そういう意味で、文化会館をどうするという庁内検討をしていくという予定にはなっていますが、非常にハードルは高いなあと思っています。耐震性がある古き良きものを、丁寧に大事に直し直し使用したほうがいいのか、何も決まっていないというのが現状です。

小林資産経営課長 日光と藤原の専門部会 1 回目のときに配布した資料が用意できましたので配らせていただきます。

大嶋市長 それでは公共施設マネジメントに関してはよろしいでしょうか。もし終了までにお気づきの点があれば、その他のところでまたお伺いをします。また、今日お持ち帰りになって、もし何かお気づきの点やご意見等があれば、教育次長にご連絡いただければと思います。

大嶋市長 それでは報告事項の 2 番目に入らせていただきたいと思います。日光明峰高等

学校支援について、説明をお願いしたいと思います。

鈴木総合政策課長 資料 2 をご覧ください。日光明峰高校の支援につきましては、当市から私と学校教育課長の 2 名が、学校運営協議会に参加させていただいているところです。学校運営協議会でのさまざまな協議内容を踏まえて、市としての支援策を検討し即効性のある取組を優先して対応することとし、平成 30 年度から支援に着手しております。主な支援の方向性ですが、資料 2 の 1 に記載のとおり 4 つの項目で、市として協力をしていく方針を固めたところです。まずは①として、日光明峰高校に対して保護者や生徒が抱えているイメージの向上だったり、廃校になるといった噂の払拭、イメージアップを図る取組が必要であるという方向性を、まず出させていただきます。それに基づきまして、市の主催するイベントや広報紙を活用し、学校の魅力というものを発信していく取組を進めてまいりました。②としては、アイスホッケー等の部活動を希望する生徒を全国から受け入れるための宿泊施設の確保が必要であるということから、平成 31 年度、今となつては令和元年になるのですが、入学生からアイスホッケーとスピードスケートの部員に限って、20%の県外からの入学制限枠、これは栃木県の教育委員会で設定していたところですが、それが撤廃されております。これにより、県外からの入学生を対象とした宿泊施設の確保については、入学者増につながるため環境づくりを支援するという事で、民間で下宿所を開設されておりました、付属資料としてカラー版の資料を用意させていただいていますが、日光明峰高校の学生寮ということで、これは民間の方が運営しております、現時点ではまだ入学者がないものですから運営はしていないのですが、もうすでに完成しております。今年 3 月末に完成したところです。間取りとかは記載のとおりで、かなりきれいな施設ですが、今現在多数の問い合わせがあるようなので、来年は期待したいと思うのですが、そちらの施設への運営に対する支援だったり、市営住宅の活用ということで対応してまいりました。③としては、市内の生徒を増やすために、通学費に対する補助など経済的な負担を減らす取組が必要であるということで、運営協議会から意見をいただきましたが、これについてはかなりの財政負担が伴うために、現時点で市の方向としては奨学金貸付制度について、大学生の利用は多いのですが、高校生の利用が少ないために、それを周知して活用していくという方向性を定めております。④としては、直接市の取組にはならないのですが、日光の地域性を活かした学習の場の充実や企業との連携による高校卒業から就職へつなぐ仕組みづくりなど、学校の魅力を向上させる取組が必要であるということで、こちらにつきましては学校の魅力を高めることは、長期的な入学者増につながることから、栃木県教育委員会、学校、地域の関係者と連携して、長期視点にたった支援を研究するという事で、方向性を定めたところです。2 ページをご覧ください。先ほどの方向性に基づきまして、具体的な市の支援ですが、まずはイメージアップを図る取組として、広報活動への支援を主に行っております。人権ミニフェスタ開催時に高校のほうで独自に作成した PR 動画を放映したり、高校が実施している地域貢献活動を広報にっこうに掲載したり、高校生アカデミーという市で主催している事業

なのですが、そちらは市のほうから出向き、学校において存続に向けた取組を高校生自体に考えていただくような取組をしております。訂正なのですが、活動内容を広報にっこうに掲載予定と書いてあるのですが、もう掲載されておりますし、下野新聞にもこちらの記事は載せていただいて、広く市民の方に対しイメージアップに繋がればと思っております。日光明峰高校につきましては、ボランティア部という部は存在しませんが、ボランティア活動もかなり行っているということから、今年度のボランティアフェスタへの参加を予定しているところです。また宿泊施設に確保するための取組につきましては、平成31年度入学生1名が、花石町の市営住宅を利用していることです。ただし、先ほど申しあげた下宿所につきましては、利用しなかったということで運営はされていません。下宿所開設にあたりましては、民間で施設の整備したのですが、運営者の方について厨房機器など初期投資が必要であることから、市のほうで備品購入費の2分の1、上限は100万円を、すでに支援させていただいております。運営に対する支援につきましては、来年度からおそらく入学生があると思いますので、3年間にわたって段階的に運営費の補助を一部してまいりたいと考えています。③の経済的負担を減らす取組につきましては、高校生への貸付も可能であることを広く周知するために、令和2年度入学生に対する学校説明会において、周知を進める予定となっております。また、その他の取組といたしまして、日光市長から栃木県のほうに、昨年度も要望しているところですが、今年度も引き続き存続に向けた要望書を提出する予定としております。最後の3ページは、日光明峰高校独自の取組です。学校説明会においては、アイスホッケーの練習を公開したり、学校の魅力を発信するためのDVDを作成し放映したり、通常学校から自ら中学校に訪問することはないケースらしいのですが、中学校を訪問して日光明峰高校の魅力を伝えたり、その際には訪問する中学校を卒業した在校生も同行するというのを聞いております。また、日光明峰高校だよりということで、広報等に毎回入っているかと思うのですが、広く皆さんに日光明峰高校の取組を知っていただくために、日光明峰だよりというものを発行しています。また県の予算において、学校の魅力を高めるために、もろもろの備品を購入したり、後は先進校を視察し、学校の魅力アップの取組を研究しているところです。今後につきましては、入学者の再募集ということで、県立高校の入学試験が終わった後に再募集をかけるのはどうかということで、学校運営協議会から県へ要望を予定しているところです。また日光明峰だよりについても、小中学校への配布を行い、中学生自身に日光明峰高校の魅力を感じていただく取組をしていくという予定となっております。さらにこれまでも行っておりますが、地域行事への積極的参加やホームページの充実、日光明峰高校で行っている日光学という授業の充実ということも、学校としては考えているところであります。以上で、日光明峰高校に対する支援についての説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

大嶋市長 説明が終わりました。ご意見、ご質問等賜りたいと思います。

藤本委員 最初のところで、廃校になるという噂の払拭というところが気になったのですが、廃校にはならないのですか。

鈴木総合政策課長 前提がありまして、80人定員なのですが、2年間継続して入学者数が54名を下回ったら廃校というか、統合を対象として検討していくということですので、55人続けば日光明峰高校は存続するという理解です。

藤本委員 実際的に、早めに日光明峰高校がなくなるということも考えていかなければならないと思うのですが、日光明峰高校がなくなった場合、年間40、50人だと思うのですが、日光明峰高校があればそこに行けた子たちが、どうするか進路で悩むと思います。そのときにどうするかとなったときに、普通科ではなくて学科を変更して行くか、あるいは鹿沼市の公立高校、あるいは宇都宮市とか矢板市の私立高校、その辺が現実的な進路先だと思います。そうなってくると、当然学力的にも経済的にも負担というのは、日光明峰高校がなくなったことにかかってくる。足尾高校がなくなったとき、足尾の様子があてはまって考えてしまうのですが、実際に足尾高校がなくなって、群馬なり日光や今市まで通うとなってくると、足尾の保護者の方は交通費がかかってくる。親が送って行くとなると、時間を合わせなくてはならないし、朝早く行かなければならない。そうなってきた結局引っ越ししてしまえということになる。高校入学を機会に引っ越しをするのではなくて、小学校、中学校の早い段階で引っ越しをしたほうが子どもも慣れるだろうと、足尾高校がなくなったことで、かなり若い世代の人たちは足尾から出ていったように思うのです。同じように考えると、足尾なり日光の一部なりというのが、同じような状況に陥ってきて、過疎化に拍車をかけてしまうようなことも考えられますので、できればそういった危機感とか、万が一のことも考えて、日光市としては対応していただければと思います。この具体的などころを見させていただいて、まず①の広報なのですが、できればSNSなどを活用して、日光市外にもできるだけ広報を行ってほしいと思います。それと通学に対する補助というところですが、以前に日光明峰高校の卒業生と話をしたときに、日光明峰高校の生徒は結構歩いて駅まで行っているのです。どうしてと聞いたら、友達とお菓子を食べながら帰るということもあるけど、観光シーズンの渋滞のときバスに乗れないそうです。1時間待っていてもバスが来たらいっぱい乗れなくて、結局次のバスを待つか、歩いて駅まで行ったほうが早いということなので、渋滞のときの高校生の通学というところも考えて、極端に言えばスクールバス運営の補助を出すとか、そういったことも考えて通学の対応をしていただいてもいいのかなと思います。④のところ、他の学校もそうだと思うのですが、同じように進路でも悩んだという話をしていたが、4番のところは、実際に就職に有利にはたらくというか、繋がる取組なのかどうかお伺いします。

鈴木総合政策課長 まず市外に対する広報なのですが、SNSとかの発信は、なかなか公の

部分で出せないものですから、運営協議会の委員にはOBだったり保護者会がおります。そちらのほうで取組を進めているところです。市としましては、広報にっこうだけでは市内だけの話になってしまいますので、下野新聞にかなり情報を提供して3、4回は、明峰高校関連で記事を書いていただいた経緯があります。2つ目の通学費補助につきましては、藤本委員がおっしゃるような、観光シーズンには乗れないという意見も伺っていて、それについては学校と話しをしました。スクールバスも検討できないかという提案をさせていただいたところです。それに対して可能であれば、市の取組支援というのでも検討しなければいけないかというのがあるのですが、学生たちは歩いている方が多かたりして、実態的にはバスを利用されている方より、歩いて行っている方が多いと、学校で調査した結果として出ているものですから、なかなかスクールバスには至らないというかたちもありました。3つ目が卒業後の就職に繋がる取組ですが、運営協議会の委員の中には旅館業を営んでいる方もいて、日光明峰高校から旅館業に呼び込みたいという意向もあります。なかなか学生たちがそういったサービス業を選ばないというケースもあつたりして、今のところ議題としてはあがっているのですが、なかなか結びつくような実行的なものはない話でして、観光課とか就職に繋げるような学科の新設もどうかという話も中にはあるのですが、そこは栃木県の教育委員会の意向もありますので、市としては栃木県の教育委員会の判断を待っているという状況となっています。以上です。

大嶋市長 他にございますか。

高井委員 藤本委員の質問とかなり重複するのですが、まず写真入りのチラシなのですか、地図が出せない理由がわかるのです。地元民としては、この見覚えのある建物はいろは坂の入口の麓みたいな、駅から日光明峰高校までも結構距離がありますし、さらにそこからもっとさみしいところにあります。例えば、学校も縮小して教室とか余っていたと思うのです。寮が同じ敷地内にできたらもっと良かったと思うのです。先ほどの歩いて帰るといっても、バスに普通に乗れないのではなくて、1時間に1本あるかないかのバスで、この寮は学校までバス10分、徒歩30分とありますが、小走りで行かないといけないのではないかとと思われる距離なのです。こういうときは、この辺の位置関係ですという地図が出るのですが、出せない理由がなんとなくわかります。私が2年くらい前に、県の前教育長に日光明峰高校の存続について質問をしたときに、申し訳ないけれど特例校としての条件もありますが、それは期待しないでくださいとはっきり言われました。観光地なので、英語を強化して国際的な科目を増やすとか、今まで古河電工があつたものですから、日光明峰高校もスケートの比重が一番多かつたのですが、学力という点でもそうですが、もう少し違う今の時代に合ったような教育の科目を検討したら、いくらか回復するのではないのでしょうかと言ったら、いやそういうことを言ってもここは無理ですとはっきり言われて、ここまで地元民が放置したのも責任があるのかなと思うのですが、とにかく歩いて日光駅まで行っている生徒は、たぶ

ん神橋のところを歩いていくので、賑わいがいくらか救いになっていると思うのです。ここから先、日光明峰高校より上は、本当に何もありません。学校の前にスーパーは1軒ありますが、それも昼間だけです。彼らが学生生活を送るにあたって、田舎から来るか都会から来るかわからないのですが、かなりショックだと思うのです。日光の地元に住んでいても、スケートを続けられなかった子どもがいて、スケートというのは非常に保護者の負担が大きいのです。道具もそうですが、練習場までの送り迎えとか、そういった部活関係の縛りが多くて、経済的、時間的な制限もあって、これ以上親に迷惑をかけられないので辞めましたという、地元に住んでいてもそういうお子さんが多いのに、支援が今までずっとなくて、外からこういうように集めると言っても、リンクに送迎ありと書いてありますが、これはどのくらい有効になるか疑問です。私の質問としては、素晴らしい学生寮でいいなと思ったのですが、実際は初年度で入寮者はないですが、その後だんだん増えてきますという、この資料のようなわけにはいかないのではないかなという意見です。

鈴木総合政策課長 まずチラシに地図が載せられない理由というのは、これは市が作っているわけではなくて民間の方が作っているのです、そういうご意見があったということを経営協議会の中でお知らせしたいと思います。委員がおっしゃっていた英語とか、そういう特化したカリキュラムはどうかというのも、経営協議会の中で話があがっています。さすがに学科まではなかなか新設するのは難しいのですが、学校のカリキュラムの中で使える英語、場所を利用して外国人の方がいらっしゃる中で使える英語、実効性のある英語教育をしたらどうかという意見もあって、そこは経営協議会の中でも議論になっています。スケートの保護者の送り迎えが負担ということでお伺いしていただいて、資料に記載がなくて恐縮ですが、アイスホッケー部の部活の送迎のうち、今まで日光明峰高校にバスがあるのですが、行きについては県立高校の用務員が乗せていくと、帰りの10時とか遅い時間は保護者にご負担をかけているということになるのですが、県の勤務時間のシフトにして、そういった対応も取組を進めているところです。

大嶋市長 市として答えられるのは限界があります。

高井委員 実際に、これがうまく功を奏して明るい方向に行くことを祈っています。

大嶋市長 いくら市が公共施設マネジメントと繋がるところもあると思うのですが、栃木県全部で高校の数と少子化が一気に進んできて、学校に通う子どもの数が今から20、30年前とは全然変わってきている中で、小学校も市内では統廃合をやっていますが、それと同じように、栃木県の県立高校の中からも出てきているのではないかと。私立高校で入学制限をかければ、入れなければみんな県立高校に行くのだと思いますが、それもやはり子どもたちの選択の自由の中で、そこも難しいのかなと思います。去年、日光市で生まれた子どもの数

が 500 人に満たないという状況の中で、高校自体のハコをそっくり維持し続けるというのも難しい中で、その特例校というのが何校か県内で出てきている一連の流れの中だと思います。文化会館で使用率が少ないところは、無駄だから壊していきましょうと。教育と効率をまるっきり同じく考えてはいけませんが、実際に子どもが少ないところに関しては、県もいろいろな意味で効率化を図っていきたいというのがありますが、日光の特性上スケートやアイスホッケーとか、地域の伝統的なスポーツもしっかり残していくという意味では、日光明峰高校の存在というのを、県も無視できないところもあって、存続をさせたいというのはこちらからも言っていますから、その中でせめぎあいをしていくというのは現状なのだと思います。一番下のほうに全国から生徒を集める効果が期待できるもので、存続の鍵となるものであるとありますが、とにかく栃木県内の中では子どもが少ないので、全国から来てもらえるようにするために、こういう宿泊所を整備して環境を整備する、そこに市が少しお手伝いをさせていただくというところで、できることはやっていく取組だにご理解いただければと思います。余談ですが、校長先生は隣の今市第三小学校、今市中学校の出身の先輩で良く知っている方なのですが、できる範囲で応援をしていきたいと思っておりますし、来年、人が来てくれるといいなと思っています。

鈴木総合政策課長 回答漏れがあったのでよろしいですか。藤本委員の質問で、廃校になることも備えて対応策を考えなくてはいけないということがあったと思いますが、廃校というか統合というか整備の対象となるのは、来年度の入学生から引き続き 8 割を切った場合になります。入学者数の判定は、来年度がスタートになります。例えば、今年度 49 名の入学生が日光明峰高校にありました。54 名が基準ですから、今年度は下回っています。来年度 54 名を切ったら、もう黄色ランプがついているので、その時点では藤本委員がおっしゃるような、何らかの措置を検討しなければならないと考えています。

大嶋市長 他にご意見ご質問ありますか。

手塚委員 3 ページの今後の検討する取組の①で県立高校合格発表後の再募集実施を要望というので、これは可能性としてどうなのでしょう。

鈴木総合政策課長 可能性については、栃木県は消極的かなと考えています。さすがに栃木県全体でそれを実施するのは難しいかなと、特例校に限ってそういう対応をしてくれないかという要望を上げる予定です。ちなみに群馬県とか、茨城県とかは再募集を実施しているので、実際は可能なのかなという思いもあるのですが、日光明峰高校にとっては、仮に全校的に再募集をかけたときに、本来ならば日光明峰高校を受けたいと思っていた人が、再募集で受ければいいやという話になってしまい、入学者が減になる可能性があるので危険があるのかなと考えます。日光明峰高校のことだけでいうと、危険があるかなと考えています。

運営協議会においては、特例校に限りということで、前提条件を付して要望をしたいと考えています。

大嶋市長 他にございますか。

速水委員 学生寮の件についてですが、今の話だと今年は 0 名ということで、新聞か何かで見たのですが、脱サラしたご夫婦が始まったと思うのですが、0 名ということは、1 年間収入が 0 ということだと思ってしまうのですが、開設者の方はどうされているのですか。

鈴木総合政策課長 まず、脱サラはしていません。鹿沼のほうに住んでいたのですが、わざわざ日光明峰高校を選ばれて、お子さんがアイスホッケーをやっているという観点もあったり、すでに鹿沼で下宿所をやられていた経験もあって、こちらに意向を示していただいて、運営者として転入していただいた方です。現時点は、これだけ大きな建物なので家賃があるのですが、そこは貸主に若干の配慮をいただいているという話は聞いています。

速水委員 脱サラではないとおっしゃいますが、元の職業を辞めて今はこの仕事一本でやられているわけですか。

鈴木総合政策課長 今までも下宿所を運営しておりましたので、1、2 名であれば奥さんが対応しています。下宿所に 10 名も 20 名も入れれば脱サラせざるを得ないですが、今現在は 0 なので、脱サラはしていない状況です。

速水委員 どこかに勤めているのですね。

鈴木総合政策課長 はい。

速水茂希委員 わかりました。

大嶋市長 よろしいでしょうか。それでは、報告事項 1、2 は終了させていただきたいと思えます。その他で事務局からありますか。

(なし)

大嶋市長 その他で何かありますか。

藤本委員 最近、日光市内の小中学校で家庭訪問を行わない学校が増えてきているという

話を聞いたのですが、教育委員会としては、どのくらいの数が家庭訪問できないか把握しているのかということと、その辺は日光市の意向みたいところで、家庭訪問が減少しているのかをお聞きしたいと思います。

大嶋市長 私も、家庭訪問についてはなんとなく聞いたことがあります。先生の負担がものすごく多いとか、行ってまずいところもあるとか。

齋藤教育長 正確な数字はわからないのですが、取りやめていこうという方針に変わっている学校はあります。

藤本亮純委員 どうしてこんな話をしたかという、できれば皆様のご意見とかお考えを聞きたかったのですが、自分としては、家庭訪問をやめることは反対です。昨今話題になっている虐待なんかもありますので、一度くらい早い段階で家庭を見るということも必要だと思いますし、子どもを指導しているのにあたって、先生が見ているその子の一面と、保護者が見ている一面は必ずしも同じではないので、その中でいろいろ話しをして、お互いの子どもに対する見方を共有しながら教育にあたっていくことも必要でしょうし、何より最近の先生方には、コミュニケーション能力が低い先生がいらっしゃいます。まともに子どもとも、保護者とも話ができない先生が、時々いらっしゃるように思います。できれば、そういうところでも家庭訪問をやっていただきたいなと私は考えています。どうして家庭訪問がなくなったかと、負担が大きいため負担をなくすためになったときに、以前もお話させていただきましたが、予算を充てる必要があるようなことも含めて、学校の先生の負担というものを、できるだけ軽くしていただきたいなと思っていますところでは。

大嶋市長 他に何かありますか。

高井委員 今日新聞に出ていました世界遺産サミットの件ですが、11月21、22日に開催され、2日目にニコニコ本陣で講演会を行うというのを見まして、やはり地元の人は、「まったく」と言っている方もいらっしゃるのですが、そもそもこの紅葉の渋滞時期に、サミットを開催する時期は、全体的に決まっているのですか。それからニコニコ本陣の講演会等のキャパシティーは、例年どのくらい来て、今回あそこに収まるかというのは、具体的にどうなのでしょう。

大嶋市長 観光庁との共催事業でして、去年私が姫路に行ったのもこの時期です。時期的には、日光の行事もいろいろ見ながら、この日程に落とし込んできました。秋の紅葉の時期ですが、これは勝手に6月にしようとか何月にしようとはなかなか決められないので、時期的にはここと言っていました。ニコニコ本陣で「まったく」と言った方は、二社一寺の近く

の旧日光でやらないとだめだという意味ですか。

高井委員 元々、世界遺産の定義自体が観光ありきというところではなくて、世界文化遺産としてのそういった価値としてあるので、できたら世界遺産に登録された土地に近いところでやってほしかったと言うのです。それで、分科会は現地でやって、いろいろなことを条件にしてニコニコ本陣でやることに決まったそうですと言ったら、日光市全体の観光の商売として世界遺産は考えているから、そういうことになるのだと言われて、そういうふうにする人もいるのだなと思いました。例えばなのですが、日光総合会館がまだあるので、あそこでやるとかは全然考えられないですか。

大嶋市長 まず、最初にニコニコ本陣を会場で行うというのは私が言いました。その理由は、日光の社寺が世界遺産だというのは、日光市全体でみんなの意識を共通にしたいと思っています。ですから、分科会は二社一寺の中、全部それぞれ3カ所でやりますが、全体のフォーラムに関しては、駐車場なんかも稼ぎ時の時期なので空けておいたほうがいいのかもあるし、なるべく今市地域でやることによって、旧今市の人にも今市のエリアの人にも、もしくは藤原や栗山や他の地域の人にも、意識を共有してほしいというか、改めて社寺の素晴らしさ、世界遺産のまちに住んでいる自信と誇りを感じてほしいというのもありまして、ある意味そのエリアから会場を離れたほうがいいのかという感覚もありました。突き詰めていくと、いろいろなまちづくり懇話会でも言っていますが、今、教育長に教科書を見せてもらったのですが、小学校3、4年生は日光市の地域全部を勉強する教科書を持っています。私たちが子どものころはなかったのですが、今市の子どもたちも足尾や栗山やいろいろな地域を勉強する、日光の子どもたちも二宮尊徳の勉強をする、日光市全体について考えてもらえる子どもたちが増えて、そして大人の我々の世代もみんなと一緒に頑張ろう、改めて日光の社寺の素晴らしさを感じようというふうに思いまして、あえて会場は下へ持ってきたというのはあります。分科会やエクスカージョンとかいろいろありまして、バスの移動等々もあるのですが、そんなにデメリットはないのではないかなと思います。姫路に参加したときは、大体会場に300人でした。ニコニコ本陣は380人入りますから、ある程度シャトルバスで移動して、バスはどこかに待機しているとか、中は道の駅になっているので、他の地区からのお客さんも入ってくると思うので、そういう意味でニコニコ本陣と思ったのですが、実は、今日の朝担当課の課長と話したのですが、狭くないかという話をしました。せっかく世界遺産20周年記念を、多くの市民のみなさんに共有してほしいと思えば、文化会館を使って開催をして500、600、700、800の人に来てもらうという方法も、選択肢としてあるのかと思ったのですが、いろいろな諸般の事情によりまして、とりあえず今の段階ではニコニコ本陣ということで調整を進めていこうと思います。あえて、二社一寺のエリアから離れたというのは、私のそういう考え方の下で、私が指示をしました。

高井委員 合併協議会のときから、日光市としての一体感の醸成がひとつの大きな目標だったのですけれども、多分そういうことを念頭に置かれて判断されたのかと思うのですが、あそこは駐車場に入れるのも結構大変なのです。だから、文化会館のほうが良かったかなと、私は思うのです。できたら、子どもたちにも聞かせてあげたいような記念事業なのかなと思います。中学生以上なら理解できる内容だと思います。教育委員になって初めて気がついたのですけれども、卒業式とか入学式で祝辞を皆さん用意されて共通で読むのですが、世界遺産のまちという概念はほとんどないので、日本全国どこに持っていっても通用するような普通の挨拶文なのです。藤原、足尾、今市、日光、栗山、その日光の子という一体感を、子どものときからもう少し植え付けてあげれば、こういうところで育ったのだなと、将来戻ってくるかもしれないし、『バカの壁』という本で、ノーベル賞を取った人は、大体きれいなところに、美しいところに住んでいたと書かれていました。せっかくそこまで市長がおっしゃるのでしたら、今の子どもたちも関わっていけるような会場にしてほしかったなと思います。たぶん小中学生があそこに行くのは難しいと思います。

大嶋市長 関係自治体は 52 あるのですが、去年の姫路の例で言うと、お子さんたちがその会場の姫路城に関する発表をするのです。お子さんたちがそれを見て勉強するのではなくて、そこに参画をしていました。そこにお子さんたちを連れてきた親と一緒にいましたが、お子さんの出番が冒頭なので、お子さんの出番が終わると一緒に帰って行きました。私はパネラーで参加しましたが、各世界遺産を持っている首長が集まって、自分たちの状況を説明したり、していくことが発表会みたいな感じでした。現状と課題等の情報交換をしながらやっていきましょうという感じでした。観光庁とかも一緒にきて、いろいろ意見を言うので、中身を独自に全部できるかというところ、そうではないところもあるのです。ある程度意見が言えるところはあると思います。それと、基調講演は京都の市長と、トリップアドバイザーの役員か何かを昔されていた女性の方で、観光誘客についての手法とかいう部分で、世界遺産と絡めてという話があったと記憶しています。小中学生が聞いて勉強になるというところよりは、少し掘り下げて研究をしましょうとか、学会の発表までにはいきませんが、そういう話に近い部分があるのかもしれませんが。まだ詳しく発表していませんけれども、日光ではアトキンソンさんに基調講演をお願いしようかなと、日程が合うかどうかわかりませんが。観光関係者であったり、市内の一般市民で関心がある方には集まっていただきたいなと思っていますけれども、小中学校の教育関係の立場からとしては少し難しくなってしまうかもしれません。参加していただくというのはあるかもしれませんが、その辺がこれから整理していかなくてはいけない課題かと思います。世界遺産 20 周年なので、世界遺産 20 周年記念杉並木マラソンとか、あらゆるいろいろなイベントには冠として、みんなでイベントを通して、事あるごとについて 20 周年のお祝いをしながら、今後も保存と活用を図っていくとか、自分たちのまちにそういう素晴らしいものがあることを再認識しながら、日々頑張ろうとかそういうものに繋げていければなと思います。他にございますか。

(なし)

大嶋市長 よろしいでしょうか。それでは、進行のほうはおろさせていただきます。

高村総合政策課長補佐 以上をもちまして、令和元年度第1回の日光市総合教育会議を終了させていただきます。

午後3時25分 閉会